



防衛医大病院広報誌 第6号 発行日令和3年10月4日  
企画・編集 防衛医科大学校病院 患者支援センター  
発行責任者 塩谷 彰浩  
住 所 〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2  
TEL 04-2995-1511

# まもる 防衛医大【護】通信

## 新任部長紹介

リハビリテーション部

尼子 雅敏

平素より大変お世話になっております。本年4月にリハビリテーション部長、教授に就任しました尼子(あまこ)と申します。私は平成2年に本校を卒業して、陸上自衛隊医官に任官し、本校で研修を積んで全国の自衛隊病院や部隊で勤務しました。平成18年に整形外科教官として母校に戻り、平成30年にリハビリテーション部に内部異動しました。今年からはリハビリテーション専門医の田村 吏沙 医師に戻ってきてもらい、リハビリテーション医2名体制です。スタッフは理学療法士3名と作業療法士2名で、非常勤職員の8名の体制で診療を行っています。



当院は地域の中核病院として、小児から高齢者の幅広い世代の患者さんに診療をおこなっています。重度の脳卒中患者や多発外傷などの重篤な患者さんも少なくなく、様々な治療を受けた入院患者さんに対してリハビリテーションをおこなっています。当科は、伝統的に早期からの積極的な運動療法を取り入れており、良好な機能回復を示してまいりました。また、歩行アシスト・デバイスや歩行動作解析装置などの高度の機器を有しており、質の高いリハビリテーション医療を提供しております。重篤な患者さんでも早期からリハビリテーションの介入を開始し、患者さんの機能の回復と社会復帰を目指しています。また長期的な治療を要するがん患者さんに対し、計画的にがんリハビリテーションも行っています。できるだけ各診療科の先生や看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、ソーシャルワーカーとコミュニケーションをとり、合同カンファレンスを開催することで、多職種と連携し一致団結して患者さんの機能回復や社会復帰の実現を目指しています。更なる治療を要する患者さんは、回復期リハビリテーション病院や療養型病院での継続・集中した治療をお願いしており、いつも快くお引き受けいただき有難うございます。転院先のスタッフの皆様とも連携を深めて、地域を挙げて高水準のリハビリテーションを提供できるように努めて参る所存です。

当院のリハビリテーションに対する忌憚ないご意見・ご指導を賜れば幸いです。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



## 患者支援センターのご紹介

副センター長 医師 大淵 康弘

皆様には平素よりご理解とご協力いただきありがとうございます。今年度より入退院支援センター長を拝命しております大淵康弘と申します。

平成2年防衛医大卒で、総合臨床部に在籍しております。この度今年4月に、広報誌第2号の池脇克則地域医療連携室長(当時)の挨拶にもありましたが地域医療連携室が「患者支援センター」に改称されました。その中には、特に入退院に特化して円滑な入院と十分な退院後のサポートを目的とした「入退院支援センター」が新たに設けられ、新しい人員を迎えて地域医療連携室からパワーアップしたセンターになりました。改称から約半年が経ち、コロナ禍も落ち着いてきたところでこの生まれ変わった「入退院支援センター」について改めてご紹介申し上げます。

今後とも池脇センター長以下スタッフ一同、地域医療と防衛医大病院の架け橋として尽力いたしますのでよろしくお願いいたします。



### < 患者支援センター >

センター長：池脇克則（抗加血管内科教授）

副センター長：大淵康弘（総合臨床部副部長）、玉井美穂子（看護師）

#### < 地域医療連携センター >

佐々木穰事務官、委託事務員3名

#### < 入退院支援センター >

センター長：大淵康弘

看護師：人見かおり、澤田喜代子

#### < 患者支援センター・がん相談支援センター >

センター長：玉井美穂子

看護師：渡邊ひとみ、医療ソーシャルワーカー：黒川清美、神田恵里

## 1. 地域医療連携センター

事務官 佐々木 穰

地域医療連携センターの主たる業務は、いわゆる「前方連携業務」であり、初診予約受付、病状照会等の対応を職員1名、委託職員2～3名／日が配置され、委託職員を中心に業務を担っております。

昨今のコロナ禍により当院の第一種感染症指定医療機関という立ち位置から、当院の診療縮小の方針に伴い、近隣医療機関様からの診療のご相談につきましても当方の事情をお察しいただき、現在の前方連携業務が斉整と行えているのはひとえに近隣医療機関様のご協力のお陰であるとの認識の元、晴れてコロナ禍終息の暁には、当センターが以前の前方連携業務で活気が戻る日を皆様と願っております。引き続き宜しく御願い申し上げます。

## 2. 入退院支援センター

看護師長 人見 かおり

入退院支援センターが発足し1年が経過しました。予定入院患者を対象に、入院前から情報収集・入院オリエンテーション等を行い、退院後の生活を見据えた継続的な関わりを目指しております。対象とする診療科の拡充を行い、現在は5つの診療科におけるクリニカルパス運用の患者に対し対応しております。今後、さらなる拡充を計画しておりますが、コロナ禍の影響もあり、対応件数が減少している状況です。しかし、確実に問題を抱えたケースは散見され、今後の地域医療の連携強化の必要性を痛感しております。当院の理念である「地域医療の貢献」に寄与するためにも、近隣の医療機関をはじめとし介護・行政など地域の皆様との連携強化に努めていく所存です。今後とも宜しく御願い致します。

## 3. 患者支援センター(がん相談支援センター)

副センター長 玉井 美穂子

今年度より地域医療連携室(後方連携)の名称を改め、患者支援センターとして活動しております。患者さんの不安やご家族が抱える諸問題が少しでも解決できるよう入院早期から患者・家族に寄り添った支援を心がけております。転院支援の場合は、できるだけ複数の医療機関を紹介させて頂き患者さんや家族の方の意向に沿うように提案しています。退院を目指す患者さんには疾患を抱えた生活者として支えて頂けるよう関係機関の皆様にご協力頂き、地域で安心して生活していけるよう地域包括ケアシステムに関与しております。高度医療機関という点では、入院をせず、他の医療機関に外来の時点から繋がせて頂くことも増えております。

入退院支援センターの事業を昨年度から開始し、入院前から経済的問題を抱えている患者さんにはMSWが介入し、多職種で関わる事で患者さん、ご家族が安心して入院生活を送ることができるのではないかと奮闘しております。

又、当病院は埼玉県がん指定病院でもあるためがん患者支援センターとしての役割を担っているため、就労両立支援としての社会保険労務士相談会やがん患者サロンなどを定期的で開催し、がん患者さんへの支援も行っています。がん患者さんであれば、当院に受診されていない方でもご相談を承ることも可能ですのでご紹介ください。地域医療連携検討会に加え、新たに市民講座なども開催しております。

看護師2名とMSW2名という体制で、行き届かない点もあるかもしれませんが、地域の皆様にもご協力賜りながら支援をして参りますので、今後とも宜しく御願い申し上げます。

## 病院理念

高度で安全な医療を提供しつつ地域医療並びに自衛隊の医療・衛生活動に貢献し、優れた自衛隊医官・看護官等を育成します。

## 基本方針

- 1 患者さんの視点に立った、安全で良質な医療を提供する
- 2 地域医療機関と密に連携し、地域に貢献する
- 3 高度で先進的な医療を追求する
- 4 地域の中核として救急医療を追求する
- 5 新興感染症に対して敏速対応できる体制を整える
- 6 災害対処能力の向上に努める
- 7 使命感をもち、優れた臨床能力を有する医官・看護官等を育成し、自衛隊医療に貢献する

## 市民公開講座を開催しました！

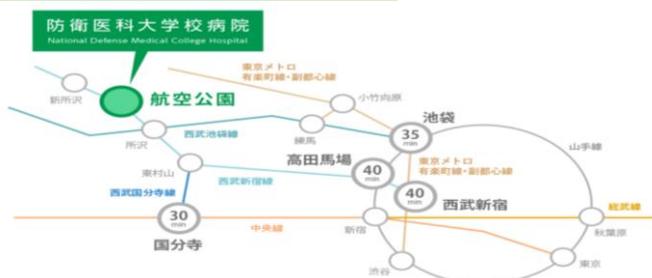
10月13日、社会保険労務士さんによる『75歳以上の医療費について・知っておきたい60歳代の働き方』というテーマで市民公開講座を開催致しました。次回は2022年2月頃を予定しております。

## 【初診予約についてお願い】

当院の精神科、脳神経内科、膠原病内科、血液内科、糖尿病内分泌内科、泌尿器科(泌尿器科一般・尿路腫瘍)、泌尿器科特殊外来【尿道狭窄症・尿失禁(男性)】、消化器内科特殊外来(脂肪肝)の初診外来は完全紹介予約制とさせていただきますので、医療機関の皆様から当院地域医療連携センターへFAXにて初診予約をお願い致します。ご協力を宜しくお願い致します。新型コロナの診療で制限させて頂いた膠原病内科、血液内科は再開させていただきますので、ご紹介下さい。

地域医療連携センター(初診予約・病状照会等連絡先) 内線 3043・3882 FAX04-2995-1130

## アクセス(交通のご案内)

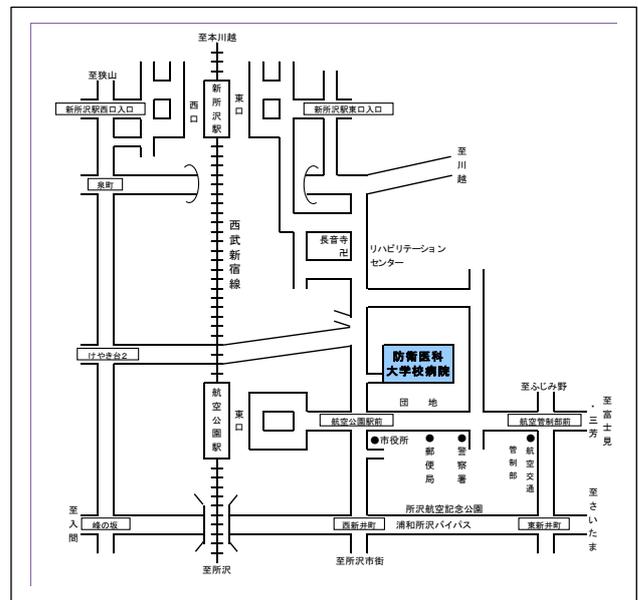


### ●電車でお越しの方

西武新宿線『航空公園駅』下車徒歩5分

### ●車でお越しの方

浦和所沢バイパス「西新井町」交差点を右折し約600m



## 医療連携の連絡先

地域医療連携センター  
初診予約、緊急入院・受診、  
セカンドオピニオン等

TEL:04-2995-1511 内線 3043・3882

患者支援センター  
退院調整、在宅調整、医療福祉相談、  
がん患者相談等

TEL:04-2955-1511 内線 6123~6126